

手数料負担額シミュレーション

①ごみ収集量（平成28年度実績）から、平成31年度想定量として、分別変更・資源化の徹底をした場合の1人あたり年間収集量を算出

表1 現状の収集量

	年間の収集量	現状の1人あたりの年間収集量
可燃ごみ	29,055,180kg	153.0kg
不燃ごみ	4,463,710kg	23.5kg
プラ容器	649,475kg	3.4kg

A B = A ÷ 小平市人口

表3 想定される収集量

分別変更・資源化の徹底をした場合の1人あたり年間収集量
142.6kg
19.0kg
18.3kg

E = Bのうち、CとDを資源ごみに移した量

表4 世帯人数別の想定収集量

分別変更・資源化の徹底をした場合の2人世帯での年間収集量	分別変更・資源化の徹底をした場合の3人世帯での年間収集量	分別変更・資源化の徹底をした場合の4人世帯での年間収集量
285.2kg	427.8kg	570.4kg
38.0kg	57.0kg	76.0kg
36.6kg	54.9kg	73.1kg

E × 2 E × 3 E × 4

表2 組成分析結果

分析対象	含まれていたもの				現状の1人あたりの年間収集量のうち、可燃・不燃ごみに含まれるプラ容器の量
	硬質プラ	軟質プラ	レジ袋	プラ容器合計	
可燃ごみ	1.2%	5.4%	0.2%	6.8%	10.4kg ^c
不燃ごみ	13.3%	5.5%	0.2%	19.0%	4.5kg ^d

(※) 小平市一般廃棄物処理基本計画にて、有料化の実施を「全量容器包装プラスチックの分別収集・資源化を前提」としていることを踏まえ、**軟質プラの分別変更・資源化**を行い、合わせて**プラ容器の分別・資源化の徹底**を行った場合に想定される量を算出する。

【算出方法】平成25年度・27年度・28年度に実施した組成分析の結果より、平均して下記の表のとおり、可燃・不燃ごみの中に含まれていた、硬質・軟質プラ、レジ袋といったプラ容器の量（C、D）を、Bの可燃・不燃ごみの量から除き、プラ容器に加える。

②重量（kg）から容量（ℓ）への換算

表5 容量あたりの重量

	容量あたりの重量
可燃ごみ	0.21kg/ℓ
不燃ごみ	0.04kg/ℓ
プラ容器	0.06kg/ℓ

F

表6 現状の排出容量

現状の1人あたりの年間排出容量
729ℓ
588ℓ
57ℓ

G = B ÷ F

表7 想定される排出容量

分別変更・資源化の徹底をした場合の1人あたりの年間排出容量	分別変更・資源化の徹底をした場合の2人世帯での年間排出容量	分別変更・資源化の徹底をした場合の3人世帯での年間排出容量	分別変更・資源化の徹底をした場合の4人世帯での年間排出容量
680ℓ	1,359ℓ	2,038ℓ	2,717ℓ
475ℓ	950ℓ	1,425ℓ	1,900ℓ
305ℓ	610ℓ	915ℓ	1,220ℓ

H = E ÷ F H × 2 H × 3 H × 4

(※) 「容量あたりの重量」（F）については、「東久留米市家庭ごみ有料化に向けた実施計画」（平成28年2月策定）より準用しています。

③年間排出容量から単純計算した負担額 (※手数料額は【可燃・不燃ごみ…2円/ℓ、プラ容器…1円/ℓ】と仮定)

表8 現状の場合の負担額

現状の場合の1人あたり			
	排出容量	年負担額	月負担額
可燃ごみ	729ℓ	1,458	122
不燃ごみ	588ℓ	1,176	98
プラ容器	57ℓ	57	5
合計	1,374ℓ	2,691	225
	G	$I = G \times$ 手数料 単価	$I \div 12$

表9 想定される負担額

分別変更・資源化の徹底をした場合の1人あたり			
	排出容量	年負担額	月負担額
	680ℓ	1,360	114
	475ℓ	950	80
	305ℓ	305	26
合計	1,460ℓ	2,615	220
	H	$J = H \times$ 手数料 単価	$J \div 12$

表10 プラ容器の料金別の負担額

プラ容器を無料とした場合		プラ容器を2円/ℓとした場合	
年負担額	月負担額	年負担額	月負担額
1,360	114	1,360	114
950	80	950	80
0	0	610	51
2,310	194	2,920	245
J' (プラ容器 無料)	$J' \div 12$	J'' (プラ容器 2円/ℓ)	$J'' \div 12$

表11 世帯人数別の負担額

	分別変更・資源化の徹底をした場合の2人世帯			分別変更・資源化の徹底をした場合の3人世帯			分別変更・資源化の徹底をした場合の4人世帯			【参考】 小平市の平均世帯人数 2.13人の場合			【参考】 1人あたりの5%の量		
	排出容量	年負担額	月負担額	排出容量	年負担額	月負担額	排出容量	年負担額	月負担額	排出容量	年負担額	月負担額	排出容量	年負担額	月負担額
可燃ごみ	1,359ℓ	2,718	227	2,038ℓ	4,076	340	2,717ℓ	5,434	453	1,448ℓ	2,897	242	34ℓ	68	6
不燃ごみ	950ℓ	1,900	159	1,425ℓ	2,850	238	1,900ℓ	3,800	317	1,012ℓ	2,024	169	24ℓ	48	4
プラ容器	610ℓ	610	51	915ℓ	915	77	1,220ℓ	1,220	102	650ℓ	650	55	15ℓ	15	2
合計	2,919ℓ	5,228	437	4,378ℓ	7,841	655	5,837ℓ	10,454	872	3,110ℓ	5,571	466	73ℓ	131	12
	$H \times 2$	$J \times 2$	$J \times 2 \div 12$	$H \times 3$	$J \times 3$	$J \times 3 \div 12$	$H \times 4$	$J \times 4$	$J \times 4 \div 12$	$H \times 2.13$	$J \times 2.13$	$J \times 2.13 \div 12$	$H \times 0.05$	$J \times 0.05$	$J \times 0.05 \div 12$

- ① 現状のごみ収集量から試算すると、1人あたりの負担額は、年間2,690円（月々225円）程度となる。
- ② 分別の変更や資源化の徹底をした場合、1人あたりの負担額は、年間2,615円（月々220円）程度となる。
- ③ プラ容器の手数料額を無料もしくは2円とすると、1人あたりの負担額は、年間305円（月々25円）程度の減額、もしくは、増額となる。
- ④ 1人につき5%の減量（73ℓ程度）をする毎に、年間130円（月々11円）程度の減額となる。
また、4人世帯では、全員で5%減量（290ℓ程度）すると、年間520円（月々43円）程度の減額となる。

※目安として、可燃ごみの半分程度を占める生ごみを、水切りや未利用食品を出さない等の取り組みを徹底し、約15～20%程度減量することで、全体として5%の減量となります。